

日本最大規模で実施された幻の城郭調査

—明治政府陸軍省築造局城郭存廃絵図（陸軍省城絵図）—

しろはく 古地図と城の博物館 富原文庫

代表 富原道晴

はじめに

今を去るわずか5年前2009年11月、フランスのマップオークションに於いて、多くの日本の城郭絵図が出版され、日本に里帰りした。2010年8月に絵図の一部、淡路の松帆台場絵図を入手した。2011年2月から3月にかけて、100余枚の存在を知り、調査したところ明治5年2月28日発足の築造局の押印を発見、同年5月の作成月や作成実務者も記名されていた。絵図は明治政府陸軍省築造局によって明治5年3月18日から、8月24日までの5か月間に実施された、城郭存廃調査絵図であることが判明した。城郭絵図としては日本最大規模、正保城絵図を超える規模で実施されたこれまで知られることのない幻の城郭調査絵図であり、正保城絵図と同様、明治5年3月15日の陸軍省達・巡見参謀将校職務大略（法令全書・森山英一）によって、統一した書式で作成された絵図であった。絵図は調査の結果、日本にもたらされた段階で関東、中四国を除き109城173枚であったことが判明した。国内で散逸したものもあり、今、91城128図が残存している。国内に入った絵図173枚も絵柄は記録されているため、それが、陸軍省絵図か否かについては、絵図が発見されれば確定する。関東がほとんど含まれていないのは調査が全国に先行して、前年明治4年12月東京鎮台管下9か国について先行して実施したためで、その際の絵図が欠落している。中四国がどの段階で散逸したかは不明である。調査絵図の作成規模は幕末の300諸侯の城郭すべてに及び、古城、台場まで含むものであり、優に300余に及ぶものと思われる。さらに調査の結果、全国の県立文書館の一部に提出控図が残存していたが、それらは、全国的な陸軍省による調査絵図としてではなく、実施した75府県が指示し、統合前の305府県が作成した明治初期の作成目的不明の城絵図として所蔵されていた。控図を含めて、残存絵図の全貌解明はこれからである。

陸軍省城絵図の意義

国家規模の城郭の一斉調査にかかわる絵図の存在は、今日まで正保城絵図以外には、その残存を全く知られていない。防衛省防衛研究所の陸軍省大日記も陸軍省城郭全国調査の記録を欠いている。陸軍省城絵図は、関東大震災や東京大空襲といった度重なる首都災禍により、陸軍機関本部の焼失とともに、その存在が忘れられた幻の絵図群である。詳細な絵図には4m近くになる巨大なものもあり、緊急時、短期間という事情により、正保城絵図のように絵師による清書を見たものは少ないが、城郭の存廃決定に至る、つまり、城郭の存続と破壊を決定する根拠となる内容的に極めて重要かつ詳細な絵図といえる。明治政府による軍制改革、急激な軍事技術の革新による価値観の変貌の中で、陸軍省城絵図は明治政府が旧幕府の城郭をどう評価していたか、今日まで、どのように変貌を遂げたのか、変貌前を物語る貴重な資料である。城郭の現存遺構はすべてそれぞれの城郭の最末期の姿である。廃城後の急激な城郭の変貌、つまり、あまり知られていない大政奉還に伴う江戸詰武士の帰藩に伴う城地の開墾、軍営設営に伴う堀土塁の破壊、民間払下げによる建造物移設取り壊し、意図的な内乱防止のための要塞の破壊等であるが、その後も、戦災、自然災害、急激な都市化に伴い城郭遺構は壊滅した。全国に旧態の全貌をとどめる城郭は姫路城といえどもその姿ではない。城郭絵図は図像研究として近年見直され、全国的に個々の地域に於いて編年別城郭絵図集が編纂されるようになった。城郭絵図は城郭をその瞬間で輪切りにしたようなもので、歴史の瞬間を記録している。城郭絵図の編年により、城郭の変遷を手繰ることが可能になる。廃城前の全国の城郭の記録がここに姿を見せたことは城郭研究にとってかけがえのないことであり、正保城絵図、修理絵図、ともに城郭基本絵図といえる。

陸軍省城絵図の作成規定と完成

城絵図作成の実務は3月15日陸軍省達として発令、さらに3月18日陸軍省達で山県陸軍大輔より全国府県に通知し、担当将校を各地に派遣した。陸軍省達および京都府への通知は以下のとおりである。

明治5年3月15日陸軍省達・巡検参謀将校職務大略（法令全書・森山）

- 1、各地城塞ノ方並地勢ノ陰易ヲ見極メ、攻守ノ便、不便ヲ計リ、暇アラバ絵図ニ認メ可申事
- 1、城中用水ノ多小、家屋ノ有無、平場ノ広狭並濠地ノ模様、游泥乾湿等明細書載セ可申事
- 1、城塞四辺ノ地理、水運ノ有無、山丘森林ノ向背等書載可申事
- 1、其城下市街人烟ノ多寡、馬匹ノ多寡、物品運輸製造等ノ項ヨリ貧陋繁富ノ別、別シテ其地人民ノ重ナル産業ハ何物ナルヤヲ記シ可申事
- 1、其城市ヨリ国境マテ又他ノ国境相通スル道路大小間道共ニ大凡里程聞繕ヒ記シ可申事
- 1、県官ト引合ヒノ節、何レヨリ何レマテ城属ノ地ナリヤ悉シク書キ記シ、図面ニテ取究メ置可申事
- 1、総テ後來万一一揆ナト起ルトキハ味方ニ城ヲ取ルトモ敵ニ城ヲ取ラレタリトモ、其攻守ノ方法等予め存意丈ニテモ記置可申書

3月18日山県陸軍大輔名で京都府への通知

陸軍省達、「今般城郭兵器等為取調、当省官員各府県へ派出巡廻為致候ニ付而者、別紙之件々詳細取調、出張官員へ可申出候事

- 1、城郭堡砦練兵場等、総而兵事ニ関係シ建築スル者者、土地並厦屋樹木共悉皆当省管轄ニ候条、詳細取調可申出候事。但城郭之儀ニ付テハ、追々届出候向キモ、尚又今般明細可申出候事

以下、兵器弾薬並びに製造所、民政のため建築したものを除く各地方県庁、武事に関する学校に着いて調査を指示している。

8月24日に陸軍省は省内の各局に調査結果に基づく城郭の存続、廃止案を示し意見を求めている。（森山127P・法規分類大全）従って、調査は明治5年3月18日から実施され、8月24日には終了という短期間であった。

現存陸軍省城絵図 128 絵図調査記録

統一した書式で指示された調査であるが、5か月という短期間であるため、正保城絵図のように絵師による清書は行われていない。以下特長を整理してみたい。

い) 内容別

城郭図 84 図 御殿図 9 図 天守図 1 城 3 図 要害図 4 図 陣屋図 9 図 古城図 8 図 砲台図 3 図

城下町図 2 図 古戦場図 1 図 施設図 3 図 地域図 2 図 城郭・陣屋・古城・要害・砲台がほとんどで 108 図、御殿・天守等建築で 12 図、その他 8 図となる。

ろ) 絵図面積

巨大図 1 辺 2m 以上 10 城 11 図

米沢城 170 x 272 c m ・ 牡鹿半島横断測量図 31 x 247 c m ・ 小諸城 2 図 250 x 424 c m ・ 亀岡城 217 x 350 c m ・ 柏原城 120 x 208 c m ・ 久留米城 346 x 256 c m ・ 岡城 28 x 405 c m ・ 佐伯城 81 x 237 c m ・ 丹波山家陣屋 163 x 207 c m ・ 白河城 274 x 224 c m

大図 1m 以上 40 図 中図 50 c m 以上 61 図 小図 50 c m 以下 15 図

は) 地域別分布（城郭、陣屋、古城、要害、砲台、城内建築図等すべて城とした。）

東北地区 23 城 28 図 2 地域 2 図 関東地区 5 城 5 図 1 施設 1 図 甲信越地区 6 城 10 図 北陸地区 5 城 8 図 東海地区 16 城 25 図 近畿地区 25 城 35 図 中国地区 0 四国地区 0 九州地区 5 城 6 図 1 古戦場 1 施設 2 図 城名不明 砲台図 1、御殿図 2、陣屋図 2、計 5 城 5 図

総計 89 城 120 図 その他 5 図 計 128 図

陸軍省城絵図の特長

- い) 当初 300 点以上に及ぶと考えられる史上最大規模の国家による全国調査であり、個別調査は県が実施している官制絵図である。調査の指示は陸軍省築造局派遣将校が全国で行っている。
- ろ) 調査の目的が城郭の軍事機能である防衛的土木工事の仕様に加えて、城域の坪数や、残存建築の居住性、坪数等、軍営地としての利用適性に重点が置かれている。旧城郭の軍事機能が最早、時代に取り残され、無視されている様が見取れる。城郭でなく、城跡の利用目的を主体とした調査である。
- は) 残存建築の平面図、間取り図、屋根葺図等の記入が詳細であり、その利用目的は居住性であり、兵営としての利用と思われる。活用整理のための付番が付されている建築が多数ある。焼失した場合は戊辰兵火等原因を記入している。
- に) ほとんどの絵図が県庁所在地や元知事住居を明記し、行政機能について、明確にし、利用状況を確認している。制作年代は廃藩置県以降である。(明治 4 年 7 月 14 日廃藩置県の詔勅)
- ほ) 城郭というより、その機能を終えた城跡と理解され、江戸詰藩士帰藩のための開墾状況、城の破壊が記録されている。藩政の記録があり、作成者は県行政当局である。
- へ) 制作年時は明治 5 年と明記したものがあり、ほとんどが同年代と推定される。陸軍省築造局の印がある絵図があり、陸軍省発足の明治 5 年 2 月 28 日以降が絵図群がまとめられた上限となる。絵図群着手は 3 月 18 日。個別絵図の完成は古図に現状記入したものもあり、明治 5 年の現状記入年を作成年としても下限は提出の 8 月となる。
- と) 薄葉紙にかかれたものが多く、既存の絵図を元図として、短期間で制作されたものが多い。
- ち) 描画精度はまちまちであるが、絵師による清書まで行った絵図は比較的少ない。
- り) 城郭図以外に、地域により、要害、砲台、軍事上の要地、古城、軍事施設、古戦場図まで含まれ、地域によって作成範囲がバラバラで指示の不明確さ、緊急性を読み取れる。福知山城のように建築図として天守各階平面図を残している城もある。
- ぬ) 城内の軍事施設、練兵場、鉄砲打場、武器蔵、武学校、兵学寮、火薬蔵、修行兵屯所、調練場、銃練場、文武学校、遠町打場、兵隊屯所、営繕方等の記入が顕著である。
- る) 絵図の作成にはフランス軍事顧問団は関与していないが、伝来の関わりには検討の余地がある。
- を) 個別城絵図の特記事項

大館城 戊辰兵火建物不残焼失、一関城 図籍掛改済印、石母田館 第 21 区・村長署名黒印、宮沢要害 壬申(明治 5 年) 5 月、守山陣屋 元松川県管轄、三春城 明治 5 年正月営繕方作成 測量佐久間讃、下館城 東京住士卒帰藩邸宅地不足本丸出丸牛年開拓、勝山城 明治 2 年銃練場改作、岡崎城 元岡崎県、刈谷城 図籍掛改済印、挙母城 本丸元挙母県城郭、田原城 元田原県、今尾城 元今尾県内外郭之図、加納城 元加納県城跡略図・藩士帰農の地に割譲、郡上城 元郡上県城郭絵図・開墾地、苗木城 元苗木県城跡略図、鳥羽城 志摩国元鳥羽県、高槻城 袋に陸軍省築造局印・高槻県、亀岡城 丹波国亀岡県、柏原城 元柏原県庁総図、福知山城 (天守指図) 明治 5 年 4 月能勢市次郎作、舞鶴砲台 壬申(明治 5 年) 5 月豊岡県支庁舞鶴局印、松帆台場 文久 3 年出来岩屋浦松尾砲台

陸軍省城絵図のまとめ

- い) 明治 5 年 3 月 18 日から、5 ヶ月という短期間で陸軍省築造局が指示し、全国の 75 府県が調査した官制絵図である。調査開始時、すでに軍営であったものは対象からはずされている。先行した明治 4 年 8 月の兵部省調査が一部紛れている可能性があるが、12 月の関東地区の調査成果は散逸している。中四国の絵図

が発見できない理由は不明であるが、今回の絵図群にはフランス発見当初から散逸していた。又、維新期に成立した藩の内、尾州、紀州の家老で慶応4年諸侯に列せられた今尾、犬山、紀伊田辺が収録されている。さらに、慶応4年駿府藩の成立で廃藩となった内、浜松、掛川、沼津、横須賀、及び、立藩された内、松尾藩が収録されている。絵図の残存度が不明であるため、調査当初の正確な絵図数については確認できない。

ろ) 絵図作成は明治5年3月18日、75府県に下命され、旧305府県の行政組織を実行部隊として、全国規模で実施され、8月完成という短期間に完成した、軍制改革や産業革命という劇変に見舞われる以前の幕末に近い、明治初期城郭を知る基礎絵図である。

は) オリジナルの通しナンバーが99まであり、陸軍省収蔵後記入され、陸軍省築造局印が捺印された、陸軍省所蔵図である。東京にあれば、関東大震災、東京大空襲に見舞われ、おそらく、残存しない幻の絵図といえる。

あとがき

紙数の関係で絵図作成の背景としての明治初期の軍事的緊張は割愛したが、江戸初期の天草の乱、絵図作成からほどなく発生した西南の役を見るとき、この絵図の作成意図が見えてくるようです。戊辰の内戦終了による国内統治のための城郭の無用化、不要城郭の破壊による内乱の防止、対外対策としての国家規模の軍営として、利用の有無による存廃決定のための緊急の調査、絵図は其の産物であった。

しかし、その後の急激な城郭の破壊によって、失われた城郭の破壊前の姿が切り取られていることで、城郭研究への効果は計り知れない。